

○ 第8回研究会

- 日時：2010年3月3日（木） 15:00-17:00<br>
- 場所：京都大学川端キャンパス 稲盛財団記念館3階中会議室
- 発表者と発表タイトル（敬称略）<br>
  - ・発表者1：野口真理子（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）  
「エチオピア西南部の高齢者の生活と「ケア」の地域的役割」
  - ・発表者2：金子守恵（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）  
「エチオピア西南部「高地」に暮らす人びとの身体：身体的な痛みのあらわれ方とその語り方」
  - ・発表者3：佐川 徹（京都大学アフリカ地域研究資料センター）  
「大規模開発プロジェクトが周縁地域に与える影響：エチオピアのダム／農場建設とダサネッチ」

【発表要旨】

発表者1. 野口真理子：「エチオピア西南部の高齢者の生活と地域でのケア」

本研究の目的は、エチオピア西南部の高齢者の生活の実態を明らかにすることである。発表では2009年8月から2010年1月までおこなった前回調査について報告する。まず本調査地に居住する高齢者が、自給度の高い生活を営んでいることを示し、老化による身体機能の低下や病気によってその自給的な生活を維持できなくなった人びとが、どのように生活を成り立たせているのかを明らかにする。

発表者2. 金子守恵：「エチオピア西南部「高地」に暮らす人びとの身体：身体的な痛みのあらわれ方とその語り方」

2009年11月と2010年1月におこなったエチオピア西南部での調査について報告をおこなう。11月にエチオピア高地に暮らす高齢者の健康状態について医学的な調査（代表・松林公蔵）の補助をおこなったことを契機に、以下の2点に関して身体に関わる調査に着手した。（1）「高地」と「低地」における小学校1～4年生の身体測定（重田、伊藤、野口との共同調査）、（2）「高地」に暮らす人びとの身体的な痛みのあらわれ方とその語り方（重田との共同調査）。発表では、この調査研究における「高地」の位置づけをし、前述の2点についての調査結果をふまえたうえで予備的な考察をおこない、今後の研究の方向性について展望する。

発表者3. 佐川 徹：「大規模開発プロジェクトが周縁地域に与える影響：エチオピアのダム／農場建設とダサネッチ」

エチオピアではこの数年、広大な商業農場の整備やアフリカ最大規模のダム建設が急速に進んでいる。国家と大型資本によるこれらの開発プロジェクトから、きわめて大きな影響を被ることになるのが、同国西南部のケニア・スーダン国境付近に暮らすダサネッチの人びとである。2009年8月にダサネッチを再訪すると、調査村の隣にはエチオピア北部人資本の大規模なトウモロコシ農場が建設されていた。本発表では、ダサネッチに関連したふたつの開発プロジェクトを概観したあとで、人びとが突然つくられた農場といかなるやりとりを重ねているのかを紹介し、農場の建設がダサネッチの社会関係や自己認識に与える影響について予備的に考察する。